

# ひまわりからの メッセージ

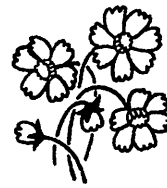
32号

2013. 11. 12

西濃園城  
発達障がいを支援センター  
ひまわり

発行人：中野たみ子

## 文字への興味



あっという間に月日が過ぎて行き、十一月になってしまいました。人間、年をとると日が早く過ぎると聞いたことがあります。まさかこんなに早く(？)実感させられるのは、余りうれしいことはありません。

小学校へ訪問すると、子どもたちは熱心に文字を習っています。その姿を見ながら、遠く昔、父と文字あそびをしたことを思い出すことがあります。父は幼い私をひざに「ひら仮名の『あ』という字は『安』という漢字からできんだよ」と、「安からあへと父は少しずつ文字をくずして書いて見せてくれました。」「じゃあ、いはいはっ」「以だよ。」「うはっ。」「字だよ。父の手元を見つめ

ながら文字の成り立ちの面白さに惹きつけられたものでした。漢字についても、その文字の成り立ちを知ること  
で興味も覚えたのでした。

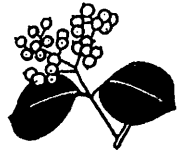
大きくなってからは、「シンと読む字がいくつ書けるか競争しよう。等とよく父に挑んだものでしたが、私がせいせい思いつくのは、心、新、親、信、慎、真、くらいだ  
ったでしょうか。しかし、文字への興味や漢字のもつ意味  
の面白さに気づかされたのは、そんな父とのやりとりの中  
だったように思います。

熟語の練習をしている子どもたちに、「どういう意味？」  
とたずねても「分からん」という答が返ってきたり、お母  
さんたちから「漢字の宿題に時間がかかって……」と相談  
されたりすると、もっと楽しく学ぶ方法はないのだろうか  
と考えたりします。覚えなくてはならないという気持ちだ  
けで学んでいける子もいるのかもしれませんが……

秋の夜長、四十年以上も前に逝ってしまった父のことを  
思い出しながら、でも、結局私は、吾が子と文字あそびを  
したことはなかったなあと思っただけでした。そして久し  
ぶりに筆を手にとってみたくなりました。

# 個別の

## 教育的ニーズとは？



前回、知能検査について書きましたが、今回は適正就学について、少し書いてみたいと思います。

お母さんの手元には、教育委員会からの「お勧め」の文書が届けられ、最終的な判断は保護者の方が決めて下さいということですから、迷われて当然だと私は思っています。けれども「何が何でも通常で行きます」とか「今まで何も知らされてなかったのに……」と言われるのは、どうなのかなあと思います。

◎ 自分の子はどのような子なのか？

まず、そこが大事です。全体的に発達が遅くくりの子なのか、人との関り方が下手でトラブルをよく起す子なのか、一方的にしゃべったり自分が押さえられない子なのか、あるいは、固まってしまうタイプなのか、好きなことには集中できるが興味がないと、落ち着きのなさが目立つ子なのか等々、お子さんの長所や強みとともに、弱い所

や特性を知ることが大事なことです。

何故そんなことを言うのかと言うと、私たちと違って保護者の方は、自分の子ですと、今後ずっと見守り、育てていかなければならない責任を担っておられるからです。他人がどう思うのかとか、世間がどう言うかということではなく、「自分の子を知る」というスタートから始めないと、いつかその見返りがやってきます。それは五年後かもしれないし、十年後かもしれません。

こんなことを書くと、「ひどい！」「私たちもおどすのですか！」とお叱りをいただくことになりそうですが、長い間この仕事をしていて思うのは、今のこの時だけを見るのではなく、今後のことも見据えた上で、今、何が必要であるかを知ることだと思っております。

もっとも、それは何もお母さんだけに限ったことではありません。「今、好きなことをさせておけばいい」という保育者や、子どもの実態をつかみ得ない療育者や、教育者もいらっしやるのが現実なので、あなたが、あなたのお子さんについての実態をきちんと教えて下さる人たちも多いと思います。「家では何の問題もありません」と言

われるお母さん方の多くは、家庭でお子さんの言いなりに  
なっていることが多いかもしれませんね。「ゲームをして  
いると大人しいのです」「好きにさせています」など、子  
どもの将来を考えたりの心配になるような発言も聞かれ  
ますが、小さい時が大切な時期だと私は思っています。

### ◎ 学校について

① 通常学級……お母さんたちが「皆と一緒に」と言  
われる学級です。知的な発達の遅れがないことが前  
提の学級です。低学年の間は、具体物や絵など視覚的  
にもわかりやすく教えてもらえますが、中学年になると  
ことばによる指導が多くなるために、言語的推理の弱  
い子にとっては、学習での困り感が増してくることが  
予想されます。計算はできるけれど文章題は苦手と  
か、国語の読解が苦手という子は、語い教が少ない子  
も多いでしょう。より具体的に言わないとわからない子  
には留意が必要です。

就学前に線のなぞりはできますか？ 三角形の模写  
はできますか？ 十以上の数（十二や十三）が一对一对  
応で教えられますか？ 絵を見て状況の理解ができ

ますか？ 描画は、線書きではなく、色ぬりもできています  
か？ なわとびはできますか？

一年生で、文字がなかなか覚えられないということはあ  
りませんか？ 拗音（小さいやゆよの入ったもの、例えば  
しゃ・ゆ・し）や促音（小さいっが入ったもの）は正しく書  
けますか？ 数の概念は育っていますか？

お母さん方は「とにかく皆と一緒に」と言われるのです  
が、中学年や高学年になって行動面の問題が表面化し  
てくる子どもたちの中には、学業不振が要因であること  
も多いと思います。また大人しいタイプの子は、皆に迷惑  
をかけることはありませんが、勉強がわからないままに年  
令を重ねてしまうこともあります。学習面での困り感は、  
しっかりと先生から伝えてもらっておきたいものです。

行動面で多動な子で、場面の变化に応じた気持ちの切り  
かえが必要な子は、絶対に医療との連携が必要です。  
脳内の伝達物質の問題が原因の場合、早い時期の服薬が  
有効です。薬によってコントロールがしやすくなり、叱られ  
ることが少なく、自己肯定感が低下しないために、十歳  
位になると服薬も必要なくなってくるでしょう。逆に、手

がつけられなくなつてからの医療では、本人の失敗体験が重なっているので、自己認知がマイナス面ばかりになつてゐるために、効果が今一つということもあるのです。

「自分は正しい。皆が僕をいじめる。皆が悪い。」とか、

自分ではできていないのに友達を注意するとか、人のことはのことば尻さとうえて攻撃するといった特性をもつ子は、思春期を迎える前から少しずつ自分にも悪いところがあるかもしれないという学習が必要です。思春期の自己認知は、とても重要だからです。

生徒指導の先生というイメージは、問題がおきた時の対処というイメージが強いのですが、実は、一人一人の生徒の実態や特性、困り感を理解して問題となる行動に発展しないようにしていくことが大きな役割です。行動面の困り感をもつ子どもたちは、家庭では、わかりにくいものです。だからこそ子どもたちの困り感の背景にあるものや要因分析をし、家庭との連携で育てていかななくてはなりません。「学校から嫌なことはかり言われる」と思わず、先生方の指摘を受けて、どうしていくのか、一緒に考えてもらいましょう。

② 通級……通級には、難聴、言語、情緒（レド、ADHD）があります。通級は、授業の補充をしてもらつとこころだと考えておられるかもしれませんが、それが目的ではありません。

通級に通うお子さんや特別支援学級に入級しているお子さんには、当然個別の指導計画が作られます。

その場合に、学習指導要領（特別支援学校）の自立活動の六区分二十六項目にそつた実態分析が使われることが多いと思います。六区分とは、健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションに分かれています。そして、一人一人の個別のニーズをとらえた上で指導目標が立てられ、優先する目標を達成するために必要な項目とリンクした具体的な指導内容が決められます。

情緒通級を利用してゐる子の保護者の中には、「内緒で通りたい」、「早くやめたい」と思つていらつしやる方もあるようですが、本当は、保護者の方が自分のお子さんを知り、次へとステップを踏んでいく大切な時期だといえます。「皆と同じように」という思いが強い余りに、お母さん自

身が方向を見失わないで欲しいと思います。先生方の中にも学習という一面だけを評価する方もいらっしゃるが、将来生きていく力は、むしろ学習以外のところ、社会性やコミュニケーションという点にあるということも忘れないでいただきたいのです。

③ 特別支援学級……情緒、知的、肢体不自由学級があります。

以前は知的も情緒も一まとめに考えていたような時代もありました。広汎性発達障害(自閉症スペクトラム)と診断名があると情緒入級ということもありましたが、現在は、知的なレベルを考慮されています。

知的学級での学習は、プリント学習も多いようですが六歳までの発達のお子さんの場合だと、NCプログラムを利用されているところもあるかもしれません。NCは、「のぞみクリニック」の略で、代表の津田望さんを中心に開発されたものです。視覚操作、言語(言語理解と表出)、記名(視覚と聴覚)文字(読字と書字)、数、運動(微細と粗大)に分けられた発達左ツク項目があって、それをチェックすることで、出来てい

ない項目が次の目標になるように作られています。

〇歳六ヶ月〜六歳までの評価項目があるので、具体的にはどの部分に弱さがあるのか、未通過のところはどの段階かを知ることができ、療育機関などでも利用できるものですが、一人一人の発達の段階を知って、評価もできる点がいいと思います。

知的学級では、各々の児童の段階にそって一人一人の指導プログラムを作って実践していくわけで、クラスに八名の児童がいたら、八通りのプログラムが必要なのわけです。ですから、通常学級の先生方とは違った意味で専門性が要求されます。

情緒学級は、通常学級のカリキュラムに沿って学習が進められます。お母さん方の中には、特別支援学級に在籍してれば、特別支援学校の高等部に入学できると思っいらっしゃる方もあります。しかし情緒学級に在籍するお子さんの工日は、知的障がいとは認められず、地域の高等学校を勧められることが多いのです。将来、発達障がいの生徒を受け入れてくれる支援学校が出来るといいのですが、

現在は入学しても中途でやめていってしまう普通高校が多いと聞きます。

自分の気持ちに折り合いをもつけること、場に適応できること、コミュニケーションがとれることなど社会の一員としてのルールも身につけたり、相手に自分の気持ちを上手に伝えるにはどうしたらいいのかも学んだりするのがこの学級です。ただ、医師が「自閉症スペクトラム」「ADHD」の診断書を書いて下さっても、知的な発達が遅い場合には、情緒学級でなく、知的学級の判定が出されることもあります。お母さんは、診断書があるから……と思っていらっしゃると、すれ違いが生じますので、注意して下さいね。

④ 特別支援学校……西濃には、大垣、海津、揖斐の三校があります。就学時に、排泄や食事など生活面での自立ができていない場合、支援学校を勧められることが多いでしょう。小学部は地元の小学校に行っており、中学部から転校するという子も最近は多いようすが、「生きていく力」の基礎の部分とも言える生活

面の自立を、しっかり押さえておきたいものです。身だしなみを整えるということは、大きくなればできるといふものではなく、日々の積み重ねが大切です。

以上、大まかに説明をしましたが、ご両親が「私たちも小さい時そうでした」とおっしゃって入級を断られたいりすることもあります。昔と今では、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わってきています。その点も考慮に入れて、お子さん自身のことも考え、学校での居場所が確保できるような選択をさせていただいてほしいものです。そしてご両親が迷いに迷って選んだ進路の学級など、そのご両親の思いに添えられる専門性があるべきでしょう。特別支援教育も六年目になりました……。



・十二月十四日(土) ソフトピア 10階 大会議室  
「学習につまづく子供たちの見える力」 谷口先生  
・十二月例会は十日(火) 九時半〜十二時半まで